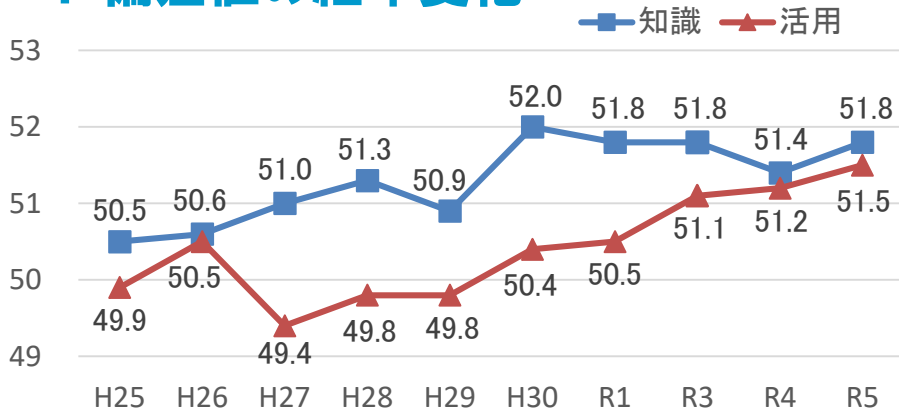


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識・活用ともに偏差値50を上回っている。

3 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
言葉の特徴や使い方に関する事項	70.2	66.6	65.6
情報の扱い方に関する事項	46.3	42.3	40.0
我が国の言語文化に関する事項	92.6	90.7	85.0
話すこと・聞くこと	66.7	64.8	66.7
書くこと	61.7	55.9	53.6
読むこと	62.2	60.4	57.5

○[知識及び技能]に係る全ての事項及び[思考力、判断力、表現力等]に係る全ての領域において、全国正答率を上回っている。

2 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	66.4	62.9	61.2
思考・判断・表現	62.8	59.3	57.5
主体的に学習に取り組む態度	55.0	49.2	49.0

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	65.2	63.6	62.7
短答	74.0	70.0	66.7
記述	57.7	51.4	50.8

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問6(3) 県正答率48.2% 無解答率23.9%

[知識及び技能](2)ア

情報と情報の関係について理解しているかどうかをみる問題。

[思考力、判断力、表現力等]Bエ

読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめ、文章を整えることができるかどうかをみる問題。

▲自分の思いや考えを表現するために、話や文章の中(今回の調査では、「下書き」と「資料」)に含まれている情報と情報がどのように結び付いているかを捉えたり整理したりすることに課題がある。

◆ 指導のポイント

★読み手の立場に立って、文章を整える際には、伝えようとする事柄や意見などが十分に書き表されているかどうかを検討することが重要。

指導に当たっては…

- ・課題に沿って文章や図表などから必要な情報を取り上げさせるとともに、取り上げた情報が自分の伝えたい根拠としてふさわしいかどうかを検討させることが考えられる。
- ・読み手に分かりやすく伝わるよう、必要に応じて取り上げた情報について自分の考えを加えさせることも考えられる。

★ 指導の具体例

単元名「読み手を意識しながら意見文を書こう」

(第1時)

- ① 学習の見通しをもつ。
- ② 意見文のテーマに沿って自分が読み手に伝えたいことを決め、伝えたいことにふさわしい根拠について考える。
- ③ 各自で必要な資料を集める。

(第2時)

- ④ 資料にある情報が、それぞれの伝えたいことの根拠としてふさわしいかどうかについて、グループで助言し合う。
- ⑤ ④で得た助言を踏まえ、意見文の下書きをノートに書く。

(第3時)

- ⑥ ⑤で書いた意見文の下書きを観点に沿ってグループで読み合い、それぞれの良い点や改善点について交流する。

【読み合う際の観点の例】

- 伝えたいことにふさわしい根拠が示されているか。
- 読み手を意識して、伝えたいことの根拠として十分な内容が示されているか。

(第4時)

- ⑦ ⑥で交流した内容を踏まえ、意見文を完成させる。
- ⑧ 学習を振り返る。

伝えたいことの根拠のふさわしさや読み手が納得できる十分な根拠となっているかどうかなどの観点に沿って、意見と根拠のつながりを考えたり、資料にある情報と情報を見比べたりする学習に粘り強く取り組ませることが大切である。